

「豊島区におけるナイトライフ観光の“これから”」

1. 背景

近年、訪日外国人旅行者の増加に伴い「日本にもっと深夜まで営業する娯楽・文化施設を増やしてほしい、夜を楽しみたい」という声を頻繁に聞くようになった。海外の主要観光都市では、深夜まで開催されるミュージカル等の観劇や美術館の夜間開館等、夜間を含め観光が楽しめる催しが行われており、日本でも、外国人はもとより日本人旅行者にとってもナイトライフ観光コンテンツの供給を求めるニーズが高まっている。

東京都ではそれに対応するため、観光施策における重要テーマの一つに「ナイトライフ観光の推進」を掲げ、夜間景観の活性化や夜間観光イベント実施のための助成等を行っている。そのような背景の中、豊島区は国際アート・カルチャー都市構想を掲げ、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」という基本理念のシンボルとなる場所として一新した、「池袋西口公園野外劇場（通称：GLOBAL RING）」をナイトライフ観光の発信の場として2019年11月に開設した。

2. 「GLOBAL RING」での都内における新たなナイトライフ観光コンテンツとなるイベント実施

会場となっているGLOBAL RINGは2019年11月に完成。2019年12月にナイトライフ観光コンテンツイベントとしての皮切りとしてプロ指揮者を招いた本格的な生演奏を楽しむ「池袋の夜を楽しむクラシックコンサート Tokyo Music Evening “Yūbe”」オープニングコンサートを実施。

2020年1月には「TOKYO MUSIC EVENING “Yūbe” with Philharmonia」として「マーラー／交響曲第3番 終楽章」をオーケストラ映像として期間中毎夜放映を実施し、2月には毎週水曜日19時及び20時半からそれぞれ30分間程度で様々なゲストによるオーケストラ演奏のみならず参加型合唱パフォーマンス等が実施された。老若男女問わず年間を通して同じ時間、同じ場所で必ずナイトライフが楽しめるという、まさに上記の日本のナイトライフ観光への需要を満たすイベントが実施されている。

3. 豊島区におけるナイトライフ観光コンテンツの自走に向けた構想について

なかでも事業実施で目を引くのが、これだけの大掛かりなコンテンツを自治体である豊島区が主導として行っている点である。

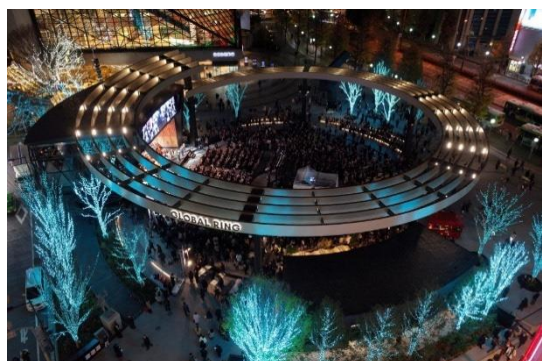
今回の「池袋西口公園野外劇場」のリニューアルについては観光資源の集積と他エリアへの波及効果、西口のエリアの差別化・ブランディングといった一定の行政が果たす目的と効果が見込めるが、エンターテインメントとして分類されるコンテンツ実施について行政主導で行っていくメリットはなんだろうか。

これは、行政主導でリニューアルされたGLOBAL RINGという「場」の活用の仕方を見

せていくことで、一般企業及び区民がそこに応援や追随をしていってもらうことで事業継続できるような仕組みを期待しての実施となっている。区民にはクラシックコンサートの実施によるエリアのブランディング等でのシビックプライドの醸成を、一般企業には趣旨に賛同いただくと共に、新たな事業実施提案を促すことによって、区が掲げている「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指していく。

＜おわりに＞

日本における今までのナイトライフといえば、一般の人がイメージするのは、居酒屋や、クラブカルチャーといったある一定層に向けたコンテンツのみを指しており、メインプレイヤーとしては主に民間事業者でありあくまで営利追及の側面から盛り上げてきた。しかし昨今の観光需要の高まりから今回の豊島区のナイトライフエンターテインメントコンテンツの取組では、このニーズに答えていくと共に、通常の事業実施としてはあまり見られない行政が主導することによる区民や企業自ら参加する観光誘客活動へ、といった流れは、中でも注目すべき点だと感じました。



延べ約 2,000 人の観客が集った池袋ナイトライフイベント合同オープニングセレモニー
(令和元年 12 月 18 日開催)

(地域振興部事業課 荒井)

※「ナイトライフ観光振興助成金」

東京都・(公財)東京観光財団では訪都旅行者を魅了するナイトライフを創出し、国内外からの旅行者誘致の促進を図ることを目的として、年間を通じた夜間イベント等実施やナイトライフに係る情報発信等を行う事業に対し、助成金を交付する事業を実施しました。